平成２８年度　第１回釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会
議事要旨

１　日　時　平成２８年　７月１１日（月）
　　午後２時００分～午後４時００分
２　場　所　釧路市役所本庁舎２階　第３委員会室
３　出席者
（１）　委　員：五十嵐委員、伊藤委員、井上かおり委員、井上雅敬委員、
　　大嶋委員、大野委員、金子委員、川前委員、小磯委員、
　　夏堀委員、西村委員、長谷川委員、畑委員、原田委員、
　　檜森委員、松尾委員（五十音順）

（２）　釧路市：蝦名市長、名塚副市長、岡本総合政策部長、
　　菅野都市経営課長、太田基本構想主幹、平間主査、
　　沼尻主任、永田主任
４　内　容
（１）　開　　会

（２）　委嘱状交付
・ 出席された１６名に対し、市長より委嘱状を交付。
・ 欠席者４名には別途委嘱状を事務局よりお渡しする。

（３）　市長挨拶

（４）　委員紹介

（５）　要綱確認
・ 釧路市基本構想策定市民委員会設置要綱に基づき事務局より説明。
・ 会議の成立を確認。

（６）　委員長・副委員長選任
・ 委員より事務局案の提示を求める声あり。
・ 事務局案として委員長に小磯委員、副委員長に川村委員を推薦。
・ 全会一致で事務局案のとおり、小磯委員が委員長に、川村委員が副委員長に選任

（７）　委員長挨拶
・ 小磯委員長より挨拶

（８） 情報公開について

・ 釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会は原則公開とし、会議の様子や議事要旨は後日公開することが確認された。

（９） 議事

① 釧路市まちづくり基本構想のイメージ

・資料１に基づき、事務局より説明。

・意見、質問等なく確認された。

② 釧路市まちづくり基本構想策定方針について

・資料２に基づいて事務局より説明。

・意見、質問等なく確認された。

③ 釧路市まちづくり基本構想策定にあたっての基本的な考え方（案）

・資料３に基づいて事務局より説明。

④ 意見交換（○は委員の発言、◎は委員長の発言、●は事務局の発言、以下同じ）

◎　ここまでの説明で質問等はないか。

○　資料２のスケジュールについてだが、今日を含めた全５回の各テーマと、この委員会の最終的な目標について聞きたい。

◎　どのような工程、中身でということか。

○　皆で５回にわたって策定にあたっての基本的な考え方を作るのか、各回でのテーマがあれば教えていただきたい。

●　全体のスケジュールの部分にもあるが、基本構想は、これから素案と原案を策定していく。第１回目は策定にあたっての基本的な考え方をご検討いただき、２回目に向けて基本構想の骨子をお示しして議論を進めていきたいと考えている。３回目については骨子に肉付けをしながら、ご意見をいただくことになる。平成２９年９月に素案の策定をしたいと考えているので、４回目、５回目についてはその素案についてのご意見をいただきたい。

◎　この５つの考え方で今回は１回目ということではなくて、それぞれ全体の熟度が少しずつ固まってきて、次は骨子ということで基本構想全体像の中の目次が出てくる。それが具体的に施策として肉付けされたものが３回目あたりに出てくる。それで実際の素案が４回、５回と、常に全体の議論をして少しずつ中身を具体化さ

せながら検討するという理解でよいか。

● はい

◎ では、順次ご意見をお願いしたい。

○ 先に送付された資料を見て私なりに理解をして、このように整理して内容を組み立てて進めていくことは理解しているが、なかなか先程の説明は難しい。具体的に取り組んでいくのは大変な作業だと思う。しかし、この後素案が出されれば、その内容について今日の説明を基にしながら検討させていただく。

○ 今日の説明を受け、基本的な考え方資料３の５つの観点から２番、３番、４番に関わって、専門が教育なので子どもが育つという環境から、この釧路市を考えた時に、大学、短大も含めて３校あるが高等教育を受けるにあたっては一旦釧路を離れるということが前提のまちである。そういった中で、一旦若い人達が釧路を離れてもまたふるさとに戻ってもらえるような取組があると良いと思う。

あとは就職先がないと、釧路に戻ってきたくても戻ってこられないことになる。そういった意味では交流人口をいかに増やすかが課題となる。そのような意味で小学校、中学校、高校を通して子ども達が釧路を好きになってくれるような取組が基本構想の中にもっと盛り込まれると良いと思い、２番、３番、４番あたりに関心を持って説明を受けた。

○ 基本構想を考えていくにあたって、都市経営の視点という意味で、釧路市が企業でいえば利益が上がっていて、お金が循環するような部分がないと都市として廃れてしまう。そういった面で設備投資をするなど、地域を活性化していかなければいけない。それと同時に釧路の企業だけが良くなるのではなく、住んでいる人が生活していくことが可能でなければいけない。

先程から発言があるように子育てができるとか、大学を卒業した後の若者が就職できる環境など、就職面で、どうすれば釧路で若い人が活躍できるような職場が確保できるかということである。

また、釧路を好きになって帰ってきたいと思えるようなまちにするために、教育でやるべきかという観点はあるが、小さなときから釧路が好きになる、釧路のことを考えることを学校で取り組まないと、都会の方が好きという人が多くなる。釧路の良いところに多く気が付いて、いずれ釧路に帰ってきたいと思えるベースを理解してもらう。小さなうちから取り組むことがとても大事だと思う。どこかに偏ることなく、バランスよく、釧路ならではの仕組み

を作ることを基本構想の中に盛り込んでいければと思う。

○　日頃から様々な住民、委員と地域づくりに携わっているが、地域活動に参加する担い手が少ないことが、様々な地域団体の中で大きい課題となっている。私達の色々なボランタリーな人材養成や、広く精神論だけで何かやりましょうということではなく、具体的な養成過程が終わったらすぐ高齢者の介護予防をやるとか、目的を明確にすることが１０年、２０年の中で福祉やボランティアの人材を育成すると思う。担い手について先程から話が出ていたが、今のゆとりのない中で働いていると、地域のために時間を割くことに関しては、２０年前と比較すると大きな変化が出てきていると感じる。

人口減少という部分では、学校が終わったら同じ人口がほぼ流出してしまう、釧路で生活し続けるための土壌づくりというところがまちづくり全体の中でポイントであるというイメージは持っている。

私の立場からすると色々なプランのなかでは、まち・ひと・しごと創生総合戦略、子育てや教育福祉的な部分で、具体的に行政と連動して行っているが、子育て支援などの視点が入ってくると思う。担い手の部分では早い世代からの人づくりが大切だと思う。

○　漠然と「保育所に子どもを預けるお母さんはお仕事をしているお母さん。幼稚園に子どもを預けるお母さんはどちらかというと家事に専念しているお母さん」というイメージを持たれている方がいるとしたら、それは現状ではないということをまず頭においていただきたい。幼稚園でも保育園のお母さんと同じように、仕事も、家庭も、育児もしながら自分も社会に出て生活をしていきたいというお母さん達が当たり前に幼稚園にいることを認識してほしい。

子育てのしやすい、具体的に言うと、もう一人子どもを生んでもやっていけると思うような子育て支援をお母さん達は望んでいる。具体的になるが、私が最近感じたのが釧路で 4 月から病後児保育が開始されたが、対象が釧路市の認可保育園に入っていることが第１条件である。市内の認可保育園に入っている子どもがうまく条件が合えば病後児保育が受けられる。結果、お母さんが少しでも早く職場に戻ることができる。しかし、釧路市民の子どもであるならば認可保育園とすることが入口かもしれないが、もっと広げていただきたい。釧路の子どもをみんなで守っていく、みんなで育て

ていく意識になれば良い。子育てのしやすい、お母さん達がもう一人子どもを生んでもやっていけるという釧路であれば良いと思う。

○　資料３の（２）の持続可能なまちづくりについて、今私達は好きなことを仕事にしていこうと考えて活動している。そういう自分の好きなことを仕事にするというようなクリエイティブな思考の人達を増やすことが持続可能なまちづくりにつながると思う。デザインの仕事やイラストの仕事とかクリエイティブな仕事で生計を立てているという認識が広まれば、外から生産性の高い人、クリエイティブな人が来る。そして釧路というまちに産業が生まれる。また、子ども達にも好きなことを追求していくとお金が稼げることを見せていきたいと思う。

○　委員会が５回ということで、具体的に自分の考えを述べる。まず釧路市に遊びに行きたいとか住みたい、地元に戻りたいという理由を作る際に起爆剤が必要である。専門が広告業界なので、どうＰＲすれば人が集まるかということを常に考えているが、釧路は、地域資源を含み、取り巻く素材がアンチエイジングの要素が多いまちだと思う。それは長期滞在に人気があることからも、若々しくいられる要素が非常に強いまちであるということである。人は誰でも年を取るが、アンチエイジングとは、少しでも若々しくいるための医学や精神的なものなどいろいろな要素が含まれており、釧路市では地域の強みをこのアンチエイジングというコンセプトの元に生かしていけばいろいろなビジネスが派生して雇用が生まれるなど可能性が大きいと思う。

○　釧路の人口減少などを見て、将来を考えると今の若い世代、特に小学生・中学生に教育の中で実際に釧路市のことをわかってもらうことが大事だと思う。

今生活科でも福祉教育でも様々な取組を行っているが、子ども達を育てるには学校だけではなく、家庭もだが、地域一丸となることが必要である。明るい釧路のイメージで、若者達に焦点を当てることが大切だと思う。

また、若者達が釧路に戻ってくることが重要と発言があったが、大学に進学するために転出していくが、戻ることができないケースもある。男性はなかなか就職で戻って来られないこともある。

子育て支援でも、色々な計画などがあるが、全部の家庭には行き渡っていないと感じる。先ほど病後児保育の意見も出ていたが、

色々な子育て支援の形や明るく住みやすいまちを目指して欲しいと思う。

あと、アンケートを配布したということだが、結果を是非見せていただきたい。その意見の小さいものも考え方の中に入れてもらいたい。

○　全体的にこの基本構想に関しては良い方向に進んでいると思う。しかし、これが帯広市に代わろうが同じであり、さほど釧路市らしさを感じない。もう少し若者が夢を持てる基本構想であっても良い。資料３に関しても、釧路市としての良さや、そこに住む人がどのような形で暮らすのが望ましいのかなど、反映させられると良いと思う。資料２に関しては、４ページ目に策定体制イメージがあるが、市民参加の一番上位に市民委員会が設置をされている。この委員会が求められているのは理念の部分やビジョンの部分の議論になるべきだと思う。

資料２の１策定の目的で、都市経営の中で３つのプラン、やはり一番に財政健全化推進プランが来るのかというイメージがある。次に市役所改革プラン、そして最後に政策プランがきている。実際に市役所の方がこう感じているのだろうが、では、市がどのような財政状況でどこまで予算配分ができるものか、どの程度まで歳入を増やさないといけないのかという資料があると良い。資料１の６についても、国の総合開発計画や道の新しい総合計画の資料も参考となる。是非今後の会議の中でそのような資料の提供があれば、また建設的な意見が出てくると思う。

最後に我々は若者世代だが、先ほどの資料の就職や進学で流出している背景を探っていくと、今はこういう時代だから勉強して良い所に就職しなさいと、そういう夢も希望も無いような指導が、若者が夢も希望も無くて困っている情勢を生んでいる。つまり目標も無くとりあえず４年制大学の良い所に行けばいいという教え方をしていることが、４年制大学も無い、一流企業も少ない地域に若者が残らない原因だと考えている。自分のやりたいことを実現することが大事だという方針があれば若い世代はそれぞれの立場で地域に残ろうと思える。我々としてはそういった枠組み作りを行っていきたい。

○　今回会議に女性が非常に多い、お子様をお連れの方がいる、男性で若い方がいるなど、多様な方が参加していることが非常に大事だと思う。その中で私は他と釧路を比べられる立場で参加してい

るが、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の際にも述べたが、他と同じものを作っても、それはかすんでしまう。今、観光立国ショーケースという中で、観光でこのまちがどうやって生き抜こうというのか。それは外から稼ぐことになり、雇用を創出することになる。

観光客が来るまちは若者達が未来に希望がもてるまちであり、女性が「いいな」と思えるまちだと思う。これから大事なのは、他のまちとは違う所を見つけるなど、みんなでこのまちがどうやったら輝くかという意見を聞くことだと感じる。具体的には北大通に植える花ひとつ、花時計に植える花ひとつにしても、それを変えるだけでこのまちは一段階も二段階もレベルアップしていくと思う。色々な意見を聞きながら釧路市の中でも取り組んでいただけたら良いと思う。

基本構想の策定には良い意見がでたら、取り入れていく柔軟な姿勢を持っていただきたい。

○　委員長の説明にもあったが、まちづくり基本構想は自治法上の総合計画ではない。逆に従来の総合計画は作りやすかった。縦系列で大綱があって、各部の施策を取りまとめていくと総花的に盛り込まれてでき上がる。この５つについては仮置きということなので、良し悪しは置いておく。

今後まちづくり基本構想の中で、各施策にやっと横に串が刺さってくる。観光の問題を例にしても市役所は縦割りの部分がある。こういう基本構想ができることによって、各部門が連携、協力していける。

各委員のそれぞれの意見の中で出た福祉の問題、雇用問題、観光の問題、全てまさに正しいと思う。しかし、全てを検討すると今までの総合計画と同じように総花的になってしまうので、調節しながらバランスをとったものを期待する。

○　資料３に１から５まであるが、その中でもリンクする部分もあり、全てのことが具体的に繋がる内容だと思う。

まず１番目の都市経営の視点によるまちづくりでヒト・モノ・カネという言葉があるが、先ほどから意見が出ている女性が子育てしやすいまちというのは非常に大事だと考えている。安心して子育てできるまちというのが、必要なのはもちろんだが、その前の段階の結婚できる妊娠できるっていう状況が第一に大事だと思う。そのような状況が無ければ生んで育てるという所まで発展しない。

その他に、何かするためにはお金が必要であり、今人口が減少していく中で外からのお金を必要とするのは皆さん理解していると思うが、私が気になっているのが、ふるさと納税である。億単位の寄付を受けているところもあれば、釧路はこんなに少ないのかというショックを受けた。では、返礼品について見た時に釧路市内の産物だけでなく白糠のチーズも入っている。釧路市なのに釧路市以外の物が入っているというショックもあった。自分のまちのことなのに自分のまちの産業をどのくらい大事に考えているのか。自分のまちがどのくらいみんなにとって大事だと思われているのか気になっている。そのふるさと納税といえば、写真が掲載されているが、魅力を感じない紹介がされている。そういったことが積み重なって、釧路の人間が自分のまちに対して誇りを持てるか持てないかという問題に繋がっているとの心配が強くある。先ほどもお話が出ていたが、自分のまちをきちんと知って自分のまちを愛することがこのまちを大事にして、また釧路に戻って来ようと思うかどうかの大きなポイントになる。

小さい頃から自分のまちの歴史などを伝える教育も大事で、積極的にまちに対しての思いを育てていくことが必要である。また、自分のまちを作る時に自分の意見を言えることは、自分が直接まちづくりに関連しているということで気持ちが変わると思う。小さい頃からまちづくりひとつひとつに関われるような仕組みを考えていただきたい。

○　まず、域内循環という言葉が出たが、取りこぼしが大分あると感じる。我々が取り組んでいる技術支援については、一次産業に関係する工業技術が大半である。釧路市では農林水産全ての一次産業が重要な産業と位置付けられている。そんな中で、一次産業は性能さえ良ければ、その産業さえ育てばいいという考え方から域外、あるいは海外からも装置を買うことがある。取りこぼしというのはその部分であり、例えば酪農分野だと 1 千何百億円の売上高があるが、その内酪農家さんの実収の状況や、海外に支払う機械代の状況を考えると、非常に海外に依存していて、そしてメンテナンスにも非常に費用がかかっている。

産業クラスターという考え方があるが、これは一つの産業を地域あるいは周辺が下支えして全てそこでまかない、最終的な売上を地域内で支えていくという考え方であり、これが地域には必要だと思う。農業試験場などに行くと海外製品の試験をしていることがある。酪農家だけを見れば、非常に優れた機械で良い収量があ

がったり、良い牛乳になったりするが、今地域全体のこと考えると一部でも地域でできる支援体制が必要である。そうした技術を習得するような努力ももちろん必要だが、農協や漁協などとタイアップして地元の技術を使って少しでも価値を上げるような取組ができる基本構想にしていただきたい。

○　私は子育て世代で育休中だが、育休が終わった後、元の職場に戻れるかというと、会社の規定としてはあるが、実際には元の部署では必要とされない。小さい子は熱を出すこともあり、急遽休むのが認められない会社なので育休明けは退職することにした。これから仕事を探さなければならない状況であるが、働く場は限られる。小さい子がいると、働く場合には保育園を利用しなければならないが、収入に応じて保育料が高くなるため、現実にどういう風に働けば良いのか悩んでいる。

それなら自分で事業を行えないかという考えから育休中に知り合った方々と、子どもを育てながらでも働ける場所を作りたいと思っている。

本州から見ると北海道はすごい憧れであり、ブランドなので、今度は釧路がブランドになるようなまちづくりができたら良いと感じる。

○　資料１「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は一言でいうと釧路の魅力だと思った。これによって人とお金が繋がって、お金を動かす人同士が繋がっていき、その魅力がまた魅力として力がついていくと思う。

そのためにきっかけになる釧路の魅力を発信することに繋がるのが資料３にある自然との共生というところかと感じている。人と人が繋がると魅力が生まれたりお金が生まれたりという循環ができていく。

高齢者を対象とした仕事をしていて、これからの子ども達が大人になった時に高齢者を介護するとか、介護の担い手になった時に本当に大変だと思う。私自身の子どももそうだが、高齢者と接する機会は冠婚葬祭とお盆、お正月くらいしかない。そうすると、将来や高齢者のことを考えるきっかけを日常の中で経験していく機会が必要と感じる。

担い手についても、介護職の求人を出しても応募がないという状況が市内にはあり、日常的に接することがない環境で育った子ども達がいきなり介護職に就くのは難しい。やってみたとしても、

うまくいかないから離職することになってしまう。大人からの機会の提供とこのまちをどうしようとか、子ども自身が考えていけるような仕組み作りが必要だと感じる。

自分の子どもが小学校の時に学校の授業で、釧路の良い所を発信するパンフレットを作るということを行った。立派なパンフレットを作ってきたが、そこには夕日が描かれており、友達は魚の絵とか夕日とかが描かれていた。今の子どもが思う魅力を認識することになった。

資料３の持続可能なまちにしていくためには、やはり人と人の繋がりが重要であると説明を聞いて感じた。

（１０） 市長の感想

議論を深めるために、他に必要な資料があれば、いつでも言っていただければ市で作成し、皆さんに配布するので、是非ともそういうやりとりをしながら委員会を作っていただければありがたい。

事前資料の中でも、ひとつひとつの資料を作るときに、何故この資料があるのか、その意味というものをお話ししていくことが重要である。例えば、釧路市は生活保護受給率が高いという中で、色々なことに取り組んできて、今、全国的に保護率が増加している時に釧路市では低くなっている、こういった意味があるとか。あとは長期滞在、観光客が増えている。これはひとつには観光というものを産業としてしっかり捉えながら進めていくために平成１７年から観光ビジョンを策定した。その時々の課題を踏まえて取り組んだ結果から出てきたひとつひとつの数字やグラフには全て意味がある。

任期がスタートしたときには第３セクターの当時１５０億円の負債があり、これを返せと言われた瞬間に釧路市はバッタリという状況であり、立て直しを進めながら、小さくなっているだけではなく、生活というものを少しでも明るくするために政策プランを策定した。さきほど委員が言われた、財政がどうなったのか、今何が課題なのか、こういったことにお答えしながら、その中で色々議論を深めていただければありがたいと思う。

これからの日本のまちづくりというのは、ある意味日本における今までの社会構造というものに対して、これから地方がどうやって立ち向かっていくのかということであり、そうした基本的な考え方は、どこのまちにあてはめてもあまり大きく変わらない。例えば、私の高校時代の同期は４００人いるが、釧路市内に現在１割しかいない、先輩も後輩も同じようにほとんど釧路にいないとい

う状況で、やっぱり現在の日本が都会に人を出していく社会構造だということである。そういった中で次働くとき、なかなか就職するところもないし、釧路がそういったものにどうやってこれから取り組んでいくのかという大きな命題になってくるのかなと思っており、そのためにも是非、色々なお話をいただければありがたいと思っている。

このまちの魅力であるとか、好きになるとか、そういった中での構想づくりというお話があった。これはやはりまちの質、クオリティと言えば良いのか、価値と言ったら良いのか、こういったことが重要なのかなというふうに、今お話を聞きながら思ったところである。

また、今回の議論の中で釧路のまちのことをさらに分かっていただく方が増えることは、私達にとって大きなプラスだと思っているので、よろしくお願いしたい。

（１１） 委員長のまとめ

市長からもコメント、感想色々いただいた中に生活保護の話があったが、生活保護政策に関しては、釧路のブランド力というものは凄いものがある。２００４年、２００５年頃釧路の生活保護率は非常に高いということで、厚生労働省からかなり厳しい指摘を受けた。私もお手伝いをしたのだが、それに向き合う中で中間就労という形、生活保護を受けているそれぞれの事情の中で、すぐにハローワークに行って仕事を探すなんて無理だろうと、だから、みんなで少しでも働けるような環境づくりをしようじゃないかという逆提案を釧路は行った。それが注目されて、すぐに成果は出なかったが、そういう地域が一緒になって地域の課題を解決していこうという機運が高まり、それが、実はもう今年度からスタートしている「釧路モデル」といえる政策で、生活困窮者の自立支援という生活保護に代わる国の新しい政策につながった。だから福祉関連の研究者や自治体からは、「生活保護に向けてあれだけ挑戦された釧路ですか」と言われるほどのまちなのである。これが釧路ブランドであり、釧路の方がそれを良い意味で自覚して、それを新しいまちづくりの基本構想の中にどう政策展開していくのか、そういう姿を見せると、新しいブランドに繋がっていく。基本構想の文字面は一見すると他のまちと同じに見えてしまうかもしれないけど、そういうきちっとした背景の中で何が出てきたのか、釧路らしいプランというものに是非挑戦していって欲しいと今の市長の話を聞いて感じた。皆さん方から貴重なご意見がでたので、いくつかのポイ

ントという形で是非、次の検討作業に繋げていただきたい。

委員の半分が女性で、しかも若い世代が多いということで、これまでのいわゆるこういうプランニング、計画議論には無い新しい発想の視点があり、これまでの計画は、いかに稼ぐかとか、いかに金を持って来るかというものだが、それに対して女性の感性というのは色々なところで色濃く、発言の中で感じられ、素晴らしい意見をいただいたというのが感想。

個別にいくと、特に女性の委員の方が発言されていたが、やっぱり釧路を好きになる、釧路のことをしっかり理解する、これは教育の分野になるが、地域教育と言うか、本当に小さい頃から釧路の、今私が申し上げたような色々な釧路が誇るべきそういうものを小さい子ども達がしっかり理解することが、そういう教育をしていくことで、仮に高等教育で外に出たとしても、何かの機会に戻ってくる、戻ってきて何かここでやってみようかとそういうことに結果的に繋がっていくので、そういう意味で教育というのは構想づくりの中で課題というか、なかなか難しいところではあるが、釧路に戻ってきたい、釧路が好きになるような、そういう子ども達に対する教育という面での向き合い方が重要。

それから今回、皆さん方のご意見のかなり大きな部分は子育てであり、先ほど委員の方が発言された、そういうお悩み、それを上手く固めてくれるような政策の支援があると素晴らしいまち。だから、そういうところに委員の方から話しがあったようにもう一人生んでもいいという、そういう釧路の子ども達を生み育てるという環境づくりに向けたメッセ―ジを新しい基本構想の中でどこまで打ち出していけるのか、これまでの総合計画とかそういう議論ではない新しい大きな命題、テーマとなる。総合戦略では、地方創生に向けてそういうものもあったが、地方創生戦略づくりというのは、あまりにも国が示す枠組みというのが大きくて、特にハードな社会資本整備とかそういう関連付けはなかったので、そこは釧路らしい独自の、もう総合戦略の箍(たが)はない訳ですから、是非このまちづくり基本構想の中で、そういうこともしていただきたいと思う。

それから、委員の方からお話があった新しい好きなことをビジネスとして、これは新しいビジネスモデルであり、やはり地方から発想する新しいビジネスモデルというのは地方の魅力を生かして好きなことをやってそれで食べていける、生活ができるという、そのモデルを地方から提起していくこと。都市経営という言葉が、釧

路市の政策の中で、先ほどお話があったような本当に大きな借金を返していく中で、金がない中でどうやっていくかという都市経営の部分というのは、市役所に置き換えれば、最小限の費用で最大限の効果をあげるというロジックになるが、地域全体に都市経営ということを置き換えれば、委員の方からお話があったように、本当に地域の資源を生かして地域の魅力を高めていくような好きなことをやって、それで経営ができるようになる。そういう地域社会づくり、そういう面で産業政策とか雇用政策は、それこそ、委員の方から発言のあったアンチエイジングのようなそういうものも釧路では素晴らしい資源があるという、そういうものを上手に組み合わせていけば、ひとつの方向になるのではないかと、個人的に感じた。

それから、委員の方からご指摘があったが、色々な幅広いヒアリングなりアンケートなりそういうものをこの委員会としっかり連携させながら、例えばどういうアンケートをするのか、その結果がどうだったのか、そことの連携というのはしっかり取って、これは先ほど市長からもあったが、より幅の広い情報提供という意見が委員からもあったが、そこに対してはしっかり答えていっていただくような取組を高めていってもらいたいと思う。

それから、委員の方から大局的な議論をしていただき、やや厳しい釧路らしい構想をという意見があったが、それは中身次第だと思う、言語で書くと同じようかもしれないが、読み解くと、さっきの生活保護の話のように、そういう背景の中で出てきたものだという、だからそういうストーリー性というか、今回の資料だけだとどこのまちでもあまり変わらないというふうに読み取られがちだが、そこをしっかり意識して作業を進めていっていただきたいと思っている。

それから委員の方から、域内循環に向けての取りこぼしの話があったが、これはすごく大事なところで、私自身も釧路の中で１３年間活動してきたが、最初の原点がこの部分で、釧路のまちに私が来たときはまだ２０世紀だったが、非常に金を稼ぐ力があり素晴らしい、北海道６圏域の中でこの地域だけが唯一海外など外からも稼げるという、ところが、稼いだお金を地元で使っていない、域内投資、域内消費、これの割合が全道の中で最も低い、この部分を改めれば稼ぐ力はあるのだから、この地域の経済力はどんどん高まっていく、そういうところで、産消協働や域内循環という、そういう提案をしていったが、さきほど委員の方からあったように、酪農などでまだまだ外に漏れている部分があると。これまで、都市経

営戦略プランの中の政策プラン、それから地方創生の総合戦略、そこでも域内循環ということでこの釧路ほど外から稼ぐ、その稼いだお金を域内でしっかり回していくという産業政策を、きっちりと意識しながら進めている、そういう地域というのは少ないと思う。少なくとも私が知っている限りではそういう釧路の取組を学びたいということで、色々都市経営戦略の勉強のためにこの地域に来られている方がいるが、問題はそういう地域だということをしっかり自覚していただいた上で、今後の基本構想の取組を進めていただきたい。だから比較的、地産地消など、食の分野以外でも域内循環に対する関心の高さというのは、この地域は他の地域に比べて大きいので、それをしっかりやっているという、そういう意味でのメッセージを自覚的に発動していくことが私は大事なのではないかと思う。

今日皆さん方からいただいた意見というのは大変貴重な意見だったと思うので、それを今後、新しい次の検討の素材に是非繋げていただいて、活発な議論にしていただくことを期待している。

資料３についてコメントさせていただくと、全体的に説明の文章が短すぎたので、是非具体的に釧路でこれまで取り組んできたそういう実績、その上に立ってのこういう方向性だというところを全体的に再整理するとよいと思った。

特に最初の方の都市経営の部分というのが、域内循環とかそういう考え方はどういうところから出てきたという経過がすごく大事であり、そこに夕張問題が背景にあるという、そのストーリー性を説明すると、他の地域の方に、釧路は是非行ってみたいなと、今度そういう取組を勉強してみたいなと、そういう感想を言う方が結構多く、実際に来られている方もいるので、そういうメッセージ性が大事だと思った。

持続可能なまちづくりという、これは非常に長期的な視点でまちづくりを目指していくという、持続可能なという言葉があまりにも色々な場面で使われすぎて、少し持ち味というものがなくなっている。ある意味ではここのキーワードは人口減少だと思う。特に釧路の場合、人口が減少すると、将来への不安につながり、経済の大きな源である消費とか投資の意欲が委縮してしまう、それによる負のスパイラルが一番怖いことであって、たとえ人口減少があったとしてもきっちりとした魅力のあるまちづくりを進めていくことが、結果的に経済的な活性化も生み出していくという、そういう面では、次世代に繋いでいくというか、そういう視野での人口減少にしっかり向き合うまちづくりを進める必要がある。

それから３番目の、強くしなやかでという、これも非常に抽象的な言葉なのでなかなか伝わらない、これは明確に言うと５年前の東日本大震災によって、防げない災害もあると、したがって、ある程度きっちりと守れるところを守っていくレジリエンス、強靭化、そういう政策が日本の中に出てきており、特に釧路の場合は、地震の問題、津波の問題そういう都市の個性を生かしてしっかりまちづくりを進めていくという、そういう分かり易いメッセージで伝えることができると釧路らしさが生きてくるのではないかと思う。

自然に関する部分では、釧路でのラムサール条約の締約国会議の開催など世界の環境都市として、釧路の発信力というのはいまだに凄いものがあり、大きな財産である。国連の環境政策の国際会議を世界のどこでやろうかと言うとき、釧路はノミネートされる都市であり、そういう釧路の持ち味をしっかり発信できる点で、北海道内や全国でも他の都市は真似のできない伝統がある。私自身、もう少し釧路というものの誇りと伝統をしっかり生かしたメッセージが出せたらより良い基本構想になっていくのではないかと感じた。

最後にこれだけは発言しておきたいということがあればお聞きしたいが、いかがでしょうか。

皆さんからの意見、少し私の方で再整理して、事務局の方と相談しながら、次の委員会に皆さん方の意見が生かされるような形での議論に繋なげていきたいと思っている。

（１２）　その他

・ご意見シートについて事務局より説明。

・次回日程について事務局より説明。

（１３）　閉会

（了）